

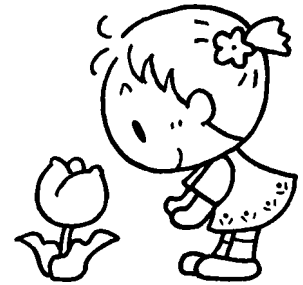


ひよこだよひ

都立葛飾ろう学校 乳幼児教育相談
令和6年4月22日 NO. 1

おしゃべりな親子に

満開の桜から花びらが舞い散る中、今年も新年度がスタートしました。本校の乳幼児教育相談も新しい教員や早期教育相談指導員の先生方を迎え、新体制で子供たちそして保護者の皆様の支援に努めてまいります。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。



さて、今年度最初の育児記録の御紹介です。この4月から1歳児になる1歳3カ月のAちゃんの記録です。

【いちご狩り】

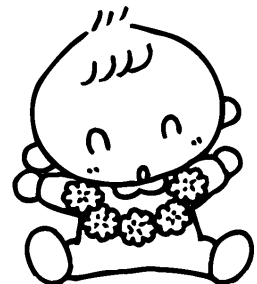
いちご狩りに行く。行きの車でいちごの話をしようと思って図鑑を持ったが、寝てしまったので説明もできず、補聴器もなくすと怖いのでつけてあげられず、いちごハウスに何の準備もせず放り出してしまった。「おいしい」「いっぱいあるね」と話しかけても微塵もこちらを見てくれず座り込んで片っ端からいちごを驚掴んで口に入れていた。かなりのいちごを食べて満足はしてくれたようなのでよし。道の駅にいたシルバニアのうさぎちゃん(娘と同じ大きさ)に興味津々でなでなでしたり目をついたりしていた。その後着ぐるみのうさぎちゃんと出会った時も自分から近づいていて、以前着ぐるみのミニーちゃんに怖がっていた頃と違った嬉しそうな反応が見られてよかった。



御家族でいちご狩りへおでかけし、大好きないちごをお腹いっぱい食べられたAちゃんの満足そうな様子が目に浮かびます。春らしい体験を御家族で楽しまれているのがいいですね。聞こえる・聞こえないに関わらず、子供は自分自身の体験から、毎日多くのことを学んでいます。保護者の皆さんには、その時期にしか目にすることのできない季節の物を見つけるアンテナを高くもって、お子さんと一緒に楽しんでいただきたいと思います。

●写真や絵カードを使って

Aちゃんのお母さんの素晴らしい所は、いちご狩りが始まる前に、いちごの話をしようと図鑑を準備していたことです。まだ1歳のAちゃんに難しい説明は分かりませんが、図鑑を広げていちごの写真を見せながらであれば、簡単なお話ができます。「いちご。いちごがあった。これからいちごをプチっと採って、あむあむ食べるよ。おいしいよ。」と、これから何をしに行くのか伝えることができますね。



実際には、Aちゃんが寝てしまったので伝えられないまま、いちご狩りが始まってしまったわけですが、「図鑑を使ってお話しよう」という意識を保護者の方がもっていることが、まずは大切です。まだ幼い子供達は、いちご狩り体験が始まってしまうと、目の前のいちごを食べることに忙しくなってしまう、大人からどんなに話し掛けられていても、体験の最中にはその話を見る余裕がなくなってしまいます。子供に何か伝える時には、その活動が始まる前に、写真や絵等の目で見てわかる物を使って話をすることが、親子の会話をしやすくするコツの1つと言えます。



●体験カード

もう一つ親子の会話の手掛かりとして使えるのは、体験カードです。Aちゃんのお母さんもいちご狩りの様子をたくさん写真に撮ったことと思います。スケッチブック等に、いちごハウスの中で、いちごを食べているAちゃんの写真を貼ります。アルバムのように何枚もの写真をきれいにレイアウトする必要はありません。1ページに1～2枚の写真で十分です。帰宅した後、または次の日にでも、この写真を見せながら、もう一度いちご狩りのお話を子供と一緒にすることができます。いちご狩りごっこもできるかもしれません。体験をしている時には、なかなか伝えきれなかった「おいしい」「いっぱいあるね」等のお話が、おうちで写真を見たり遊んだりしながらであれば、子供も落ち着いてお父さんやお母さんの話を見てくれることが増え、会話の機会を作ることができます。いろいろな体験を体験しただけで終わりにするのではなく、言葉につなげていくひと工夫が、親子のおしゃべりをより楽しく深いものにしてくれます。

豊かな体験と、その体験についての楽しい親子のおしゃべりが、子供のよく動く体とやわらかな感性と言語力を育みます。今年もいろいろな体験を親子で楽しんでいきましょう。

(担当：松澤)

